

泉大津市の小中学校で受けた道徳授業に関する感想を調査

小川

授業内容はほとんど覚えていないが、今思い返してみれば、道徳に関することは授業ではなく、先生個人に言われた言葉が心に残っている。中学校では野球部の監督に「球道即人生」ということを言われ続け、当時は意味が分かりませんでした。今ではよく分かりますし、その通りだとも思います。

中山

小中学生時代の記憶に、これが道徳教育で学んだ事なんだとしっかり言えるものはなかなかありません。それが道徳の授業であったのかは覚えていないのですが、唯一記憶に残っているのは中学生の時にした、気球が重量オーバーになってしまって「家族」や「友達」や「食べ物」などの選択肢の中からどれを優先的に残していくのかという授業だけです。

僕が僕自身の人格の判断はできないですが、道徳的な成長のタネとしては、自分で図書館で読んでいた四字熟語や諺の四コマ漫画の本、母親からよく聞かされた「人のふり見てわがふり直せ」などの格言や昔からの教訓である言葉が大きかったのだと思います。

朝比奈

朝比奈

小中学校時の道徳授業の記憶や内容は不明瞭な印象。なんとなく「人を助けること、思いやることは良いことだ」といったような内容だったと思うが、曖昧。

教える側の先生も難しいと思います。教えるスキルも違えば、考え方も千差万別だと思いますので…。中学時代テニス部に所属していた時の顧問の先生から肌で教わるのがとても大きかったです。

人としての基本的な道徳を教えて、公私ともに重んじることの出来る姿勢を身に着けることを踏まえた上で、格言、また偉人伝などを教えて、「このように生きたい」と思えるような前向きに希望や、やる気を持てるような生き方の思考が、腹に落ちるような形の道徳教育が行われればと感じます。

三浦

道徳の授業かどうかは忘れてしまったのですが印象に残ってる事としまして小学生の時、体育館で「はだしのゲン」を視聴した記憶があります。

幼いながらに戦争の現実を知り、その恐怖は今でも覚えています。同級生にも数人確認した所、「はだしのゲン」を視聴した事は全員覚えています。

10 数年経った今でも小学生時代の他の事は色々と忘れてしまっていますがその事だけは何故か覚えています。それだけ強烈な印象だったのだと思います。

宮本

小学校の時の道徳の授業は、先生によっては積極的に道徳的な内容をやっていましたが、内容はあまり記憶に残っていません。国語のようにテキストを読んだり、詩を読んだり、あとはビデオを見たこともあったような気がします。

戦争関連のものは印象に残っていますが、今は平和のありがたさという意味で理解できますが、当時はグロテスクさや、悲惨さのみしか伝わらず、戦争イコール恐怖となっていて、先祖への感謝や、いまのありがたみというのは全く伝わりませんでした。ので、さほどやくにたたないと思います。

浅野けんせい(中3):道徳でなにをやっているか?心のノート。お題があって、それに対する自分の意見を発表。おばあちゃんが認知症になって、それが激しくなってきた、おばあちゃんに思い出の品をプレゼント。しかし、おばあちゃん覚えていない。認知症になるのは悲しいこと。それを受け入れて優しく接しようと思う。

残っていること。原爆で被爆した人の病院に自分がいる。中が密室。窓があって・・・衝撃的だったから覚えている。そこから学んだこと、嘘も方便。

エピソード残っているものがあるが、心に残っていることはない。あまり覚えていない。

大切にしている言葉は、母から教えられた「常にまわりに気を配る。」これが一番心に留まっている。

賀数しょう(中1):道徳の授業。先生が教科書読む。それに対し、どういう風に思ったかを紙に書く授業を繰り返す。印象に残ったこと、二人の友達がいる、一人がいつも命令。あるときけんかして、なんでも言い合えるように。一人が約束破った。エピソードを覚えているだけ。

賀数じん(中3):道徳の教科書を使っていない。先生の伝えたいことが盛り込まれた物語を読む。記憶に残ってるエピソードや印象に残った先生が伝えたいことは、その時々では思うが、残っていない。小学校の時のことは、何をしたかは覚えていない。

石原

小・中学校で道徳という時間割はありましたが、別の授業の補填のための枠だったイメージが残っています。道徳に関しての授業が行われたのは少なかったと思います。内容はあやふやで申し訳ないのですが、喧嘩をしたあとの気まずさとか、そういう心の動きについてのことをしていたと思います。

学校の道徳の授業で学ぶのではなく、家族や友人との揉め事を通して相手を無意味に傷付けても何も生まれないことなど、人との付き合いの上で学んだことの方が多いです。

浜村: エピソードではなく、人間の土台となるようなもの(論語)を教える方が、よほどためになるのでは。道にそれそうな時の自制心など。

影山

小学校の時、「他人と過去は変えられないが自分と未来は変えられる」、「ハートフル(学年のスローガンのようなもので、人に優しく接しましょうという意味がこもっています)」と何度も言われたことをよく覚えています。今も覚えている印象的な言葉です。

道徳の授業は小学校の時だけありました。テレビで子供番組を見たり、心のノートをごく稀にやったりしましたが、正直何をやっているかわかりませんでした。先生が何を伝えたいのか、理解できませんでした。

中学校の時は、僕の部活の顧問の先生が情にあつく厳しくも優しい人で、「お前ら義理も人情もないのか！」と言われていたのを覚えています。毎日の部活を通して、仲間の大切さ、それによる充実感を味わいました。

吉田

僕の小学校の道徳の授業は、『窓際のトットちゃん』という本を小学校3年生の時に読んだ記憶があります。その他にも何かしらの本を読むということはしていましたが、特に何か考えたり意見を言ったりした記憶はありません。今考えるとやっていた意味は正直僕はまったく感じていませんでした。中学生の時は道徳の授業はありませんでした。